

丈夫な血管長生きのもと

今回は下肢静脈瘤じゆうみづについてお話しします。

この病気は、出産経験のある四十歳以上の女性の七割以上に見られる下肢の皮膚直下にある静脈の拡張です。

足首から先を足部、足首からひざまでを下腿だいたい、その上を大腿だいたいと呼びますが、下腿の内側に数センチの薄青いツタ状の膨らみが続くのが典型的な例です。

血管外科を受診される際には、何年も前からそ

下肢静脈瘤 ①

の存在には気づいていたけれど、特に症状もないのでほっておいた、と言われる方がほとんどです。

人間は立位をとれる生き物です。

経産婦の7割以上に

心臓から出た血液は動脈を通じて足に行き、筋肉や皮膚に栄養を分配し、静脈に集まって心臓に戻ってきます。血液を心臓まで戻す静脈の中には、血液が重力に逆らって心臓まで戻ることができるように、弁という構

造があります。血管の壁から、その中に向かつて、二枚の膜が同じ場所に飛び出していきます。血液が心臓に向かうときには膜の間が開いて通しますが、戻ろうとすると膜のすき間が閉じます。両開きの扉と同じような構造となっていて壊してしまつたのと同じです)、立つたときには心臓から足までの水圧(血液の圧)が静脈にかかり、次第に静脈壁が押し広げられて静脈瘤になります。

です。大腿部にも拡張した静脈はあるのですが、皮下脂肪が厚いので分かりません。皮下脂肪の薄い下腿に拡張した静脈が目立つのが下肢静脈瘤です。

先生 尚道 錦見
(にしきみ・なおみち)



名古屋生まれ。東海高校、名古屋大学医学部卒業。大学院終了後、米国留学。桐生厚生総合病院で研修中に血管外科を志望。名古屋第一赤十字病院血管外科部長。